会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和5年度第3回近江八幡市社会教育委員・公民館運営審議会委員の会議		
開催日時	令和6年3月8日（金） 13:30～15:00		
開催場所	近江八幡市文化会館 2階 会議室2		
出席者 会長◎ 副会長○	<社会教育委員> ◎大橋委員 蒲生委員 深山委員 山田委員 松本委員 葛島委員 松岡委員 小川委員 吉井委員 重野委員 綿貫委員 高橋委員 <説明者・事務局> 生涯学習課 富江課長 温井指導主事 田中主事 瀧口事務員		
次回開催予定日	令和6年6月		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 田中 電話番号：0748-36-5533 Fax番号：0748-36-5565 メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・ 要 約	要約した理由	内容が整理され、記録として残すことに適しているため

事務局	1. 開会 (1) 挨拶
委員長	委員長挨拶
事務局	会議出席者の報告
事務局	↓ 議事交代(委員長による議事進行)
	2. 報告・協議事項 (1) 子ども体験活動推進事業に係る補助金交付について
委員	各学区に子ども活動協議会がある。対象となる体験活動について、「キャンプ」のほかに、一年間の取り組みも対象となるか。
事務局	現在、要項を作成中で確定していないが、補助金額は基本的に1団体20万円までであるが、1回申請したら2回目は申請することはできない。いくつも活動がある場合は、抜粋して申請していただき、20万円を超えなければ助成をすることができるという方向で検討しております。
委員	馬淵では、芋ほり、ペットボトルロケットなど年間7・8回事業をすることがある。事業費は年間で20万円を超えない場合もある。こういう活動も対象にしてもらえるとよい。
事務局	対象となる体験活動等について、Q&Aを作成させていただきます。 広報やホームページの方でこの補助金のことについては周知させていただくのだが、まちづくり協議会の活動との兼ね合いが今一番悩んでいるところである。この補助金をどのような事業に助成できるかを検討する意見をいただいたので、そのことも含めて考えさせていただきたい。
委員	おやじ連の中のボランティア団体が子どもを含めた活動でいろんなことをやっている。ちょうど今は桜ぼんぼりで、今回は333個下げる。子どもたちの環境へのメッセージを書いてもらって、それをはめ込んでいる。今は応援してもらえる企業さんを調べてやっている。このような活動にも補助金は出るのか。それから他にも、鯉のぼり、竹の子堀り、地引網体験、キャンプなど団体ごとにいろんなことをやっている。少しでも補助金が出るということになれば、活動するのが楽になるかと思う。
事務局	竹の子堀りや、地引網、キャンプ等はここでいう自然体験活動に当てはまると思う。人数のルールがあるが、今のお話を聞く限りでは大丈夫だと思う。
委員	新しい制度ができるというのはいいが、制度の目的は、今までできていない、何か支援があったらもっと子どものための活動が広がるだろうというのが最大限の目標かと思う。今、市の方でやっていないところ、初めてやることの掘り起こしが最優先ではないか。既にやっている団体が資金が足りずに無理でやれていない、縮小していることにおいてもやはり支援が必要だ。今そういった活動をしている方も高齢化に伴いだんだんと少なくなっている。若い人は考え方が違うので、無償のボランティアというのはなかなか難しい。ちょっと来て支援してくれる人に報酬を払うことで、人材の掘り起こしをしていけるといいのではないか。来年度からの事業なので、時間はないが、そういうことができるといいのではないか。

事務局	来年度からということでもうすぐスタートしてしまうが、これを求めている人を把握したうえで、進めていきたい。
委員	学校でボランティアを募ってやっている活動、例えば田植えとかの活動は対象になるのか。
事務局	学校教育の一環として行う活動、もしくは学校教育を補完する活動は対象外となっているので、現状では難しい。
委員	子ども活動のスケジュールは早く出来るが、詳細については事前に全部決まっていな。申請の締切時期や、選考方法、支払時期は具体的にどうなるのか。
事務局	現状の案では、申請の締切は、事業を行う1か月前としており、概算払いで支給し、事業終了後に報告書を提出してもらう。補助金が余れば返金していただくことになる。
委員	20万円以内で申請は一回だけとなると、長く続かないのではないかと。その時だけの事業で切れてしまう。
委員	年間計画での申請をして、それらの事業が対象になるかどうかかわかるといい。やった方がいいが、これはだめだと言われたら困るのではないかと。
委員	文化庁の補助金をいただいて、子どもに茶道の指導をした。他に、小学校のクラブで指導したりした。このような経験を生かし、そこに来ない子どもが参加できたらいいと思っている。文化庁は、上限なしで、許可が下りたらやっていた。10人ぐらいの生徒を月に1回、年間10回指導していた。茶道には抹茶とお菓子はつきもので、それなしでは指導できないということで、最初のころは補助されていたが、4年目ぐらいから、抹茶とお菓子はダメになった。そうすると親の負担になる。最後の決算も厳しい。安土っ子フェスティバルに出店したお茶席でも大人が接待していたが、子どもが進んでするようになった。それが成果だった。それを報告書に挙げたら次の年も補助がもらえた。5年続いた。コロナで4年ほど遠慮しているが、このような感じで進めてきた。近江八幡市の新規事業もよいと思う。1年で終わるのではなく、続く前提があればやりがいがある。子どもが指導者になってくれるのでとてもいいことだと思う。
委員	こういった団体を対象に説明をするのか。まち協の事務主任会で説明するとかはあるのか。
事務局	要綱の策定段階であり、まだどのような団体に周知するかということは決まっていな。各学区でまち協は年間を通じて行事を行っておられると思うので補助金の対象となれば、対応をするのでよろしく願いたい。
委員	まち協は、市からの補助金・助成金を受けている。この補助金が出れば二重になるのではないかと、問題があるかと思う。
事務局	今の案の段階で補助事業の対象外として考えているなかに、学校教育に含まれる活動、市から他の補助金や助成金の交付を受けている活動が含まれている。既に他の補助金を交付されている場合は対象外になると思う。
委員長	他に何か意見はあるでしょうか、無いようでしたら次の議事に行きます。

事務局	(2) 第3次子ども読書推進計画(案)について
委員	<p>自分自身も本をゆったりと読んでいる時間がないと感じている。子どもが幼稚園の時のことを思い返すと、絵本をどんどん先生が紹介して下さって、寝かしつけなどで子どもも親も頑張って読んでいた。小中学生になると家では本を読むと言う機会もないが、学校で朝読書の取り組みがあり本を読んでいる。タブレットで電子書籍を読む親世代が多くなってきているので、家にある本を子どもが興味を示して手に取る機会も減ってきているのではないかと。資料の中で高校2年生のアンケート概要を見て読書が増えてきているように思うが、自分の興味のある勉強、したい事についての本を読み始める時期なのかなと思う。小中学生は、いかに本に触れてもらうかが重要で、きっかけは学校にあるように思う。</p>
事務局	<p>きっかけは家庭だけでなく、と考えている。園所学校での読書へのきっかけづくりを大事にしていきたい。今回の調査は、タブレットで書籍を読んでいるのは含まれていないので詳細は把握できていないが、次回5年間の調査では、その詳細を把握できるようにする必要を感じている。高校生くらいになると、まだ自分の将来の方面が決まらない生徒も、興味を持つ分野が出てくると、読もうかなと思う本が見つかることもあると思う。「いつ始めてもいい読書」は、今年度の協議会で高校の先生が発言して下さっていた。そういうとらえ方も大事かと考えている。</p>
委員	<p>3月3日に市立図書館で市内出身の絵本作家くせさなえさんの講演会があり、行ってきた。子育ての中で絵本をというお話であり、とても素晴らしい講演だった。こういった形で保護者に絵本の魅力を伝え、興味を持ってもらう事が大事だと感じた。読書感想文は昔からあったが、読書の感想を絵で描くというのがあって、そういう取り組みも良かったと思う。</p>
事務局	<p>市立図書館の司書の方は大変専門的でおられるので、推進計画の策定においてもいろいろとアドバイスをいただき、大変頼りになる存在である。これからも連携をしっかりとしていきたい。くせさんの講演会は行けなかったが、やはり保護者に啓発することが大事だと思う。読書感想文の取り組みは、本を読んだら書かないといけないというようなちょっと脅迫に近いような子どもたちに苦手意識を埋め込むような取り組みではなく、いろいろな切り口で読書を楽しんでもらえるようにということは、学校教育課の方でも進めてくれているので、この5年間でいろいろなことができたという報告ができたらと思っている。</p>
委員	<p>地域学校協働活動推進員として、安土中学校で活動している。中学生への読み聞かせを月1回行っているが、ボランティアさんの人数が減ってきている。その中でも工夫しながらなんとか読み聞かせをおこない、15年以上続けて来られた。ボランティアさんの読み聞かせは、選書において、平和や季節の行事や人権など、ボランティアさんが選ばれることがほとんどであり、先生方とは別の刺激を子どもたちに与えてくれると感じている。一方でどんな本を選んだらいいかと思っているボランティアもいる。以前やってもらったような、ボランティアへの読み聞かせの研修会があるとありがたい。</p>
事務局	<p>学校司書の配置が進み、図書を活用した授業づくりに、学校司書の大きな協力を得ている。来年度は5名から8名に増員になる。司書一人当たりの担当校数が減るので、より質を高めていけたらいいと思っている。</p> <p>日々のボランティアの皆様のご協力については大変ありがたいと思っている。小学校では、学校とボランティアが話し合っ、年間計画を立てることを第3次の計画に盛り込んでいる。こういった連携を大事にしたい。研修については、ボランティアがあってこそその活動なので前向きに検討したい。</p>
委員	<p>移動図書館が始まって3年たって、その効果は数値としてどうか。</p>

事務局	<p>数値としては、今伝えられるものを持っていないが、多くの学校やコミセンから、移動図書館があって有り難い、利用しているなどの声を聞いている。利用率は上がっているのではないかと思われる。</p>
委員	<p>移動図書館は高齢者もたくさん利用している。また、学校と違う図書の配架があるのか読書が増えている。行く場所やターゲットによって配架を変えてもらえるといいと思う。もう一つは、読み聞かせのボランティアの高齢化や減少について先程言われていたが、高校生や大学生にボランティアを募集するなど、若い世代を掘り起こしていく、そういった発想もあっていいのではないか。</p>
事務局	<p>移動図書館に関しては、行先によって配架を変えるとかそういった工夫はされていると思う。また、そのようなご意見を図書館に伝えます。ボランティアの件に関して、ぜひともこのようなやり方について、新しい構想として参考にしたいと思う。</p>
委員	<p>2月21日に馬淵小学校に、移動図書館が来ていた。全校児童かと思うほど、多くの児童が借りていた。校長先生は移動図書館が来ることで本を読む児童が増えたと言っていた。東中では、移動図書館が放課後の貸出をしている。何人も借りているようでいいことだと思う。読み聞かせについては、東中でもやっている。</p>
委員長	<p>第3次子ども読書活動推進計画(案)について、何点か教えていただきたい。2ページの不読率について、「国の目標を達しておらず、国の結果より高い結果が出ています。」とあるが、市の不読率は非常に高く、国の目標との差が非常に大きい。課題として出すなら表現がこれでよいか。次に、3ページの5年度の小中の学校司書が5名になったとあるが、専任の方なのか兼任の方なのか、5名でカバーできているのかという点です。</p>
事務局	<p>不読率の方については、国の方の目標との違いが非常に高い結果であるところに関して、もう少し課題意識を大きく表現し実態と合わせられるようにしたい。 2点目の司書の件は一人あたり2校から3校を担当されており、授業の中でも一緒に活動してもらうことが進み始めている。来年度は8名の司書配置の予定が決まっており、1校あたりの司書さんの活動時間が増える方向で、より学校での活動の質を上げていく目標に取り組んでいけるよう、学校教育課とともに考えている。</p>
委員長	<p>7ページの「月1冊本を読む児童生徒が多いのは、学校での朝読書等の取り組みの成果」とあり、確かにそう言えるかもしれないが、5年間の推移をみると、2冊3冊は逆に減っている。0冊は増えている。これはむしろ課題ではないか。もう1点、「中高生に1,2冊が多いのは、長編小説などの本を読んでいることが理由と考えられる。」とあるが、調査項目に、どのジャンルの本を読んでいるかという項目はない。どこから出てくるのか、根拠が示されていないので、推測なら入れない方がいいと思うが、いかがなものか。それからもう1点、8ページの5年間の推移について説明があるが、10分というところが非常に増えているが、これについては何も書かれていない。課題にも関わらずそれについての説明がなされていないのはいかがなものか。</p>
事務局	<p>朝読書という機会を与えられて、本を読むというより本を手にする機会は100パーセント近いが、実際に今月本を読みましたかというアンケート調査をしたときに、読んでないと答えるということから、子どもたちが、読まされている意識が強く、主体的な読書になっていないのではないかとということが、推進委員会の方で話題が上がっていた。そのようなことから、1冊の後の2冊目や読書時間が伸び悩んでいることに関しては、5年間の計画の中で、子どもたちが自発的に、主体的に読みたくなることを着眼点として考えていかなければならないことを課題と感じている。 もう一つの長編小説などの本とした点については、推進委員会の方で出た意見を採用したものであり、確かに正確な根拠のある情報ではないので削除するようにし</p>

	たい。
委員	本を読まない人が増えている。中学生は部活や宿題が増えて読む時間がない。
事務局	不読率が高い理由に関しては、推進委員会の方で出ていたが、やはり SNS の普及であったり、家庭での読書への親しみが薄れていることがあげられる。これに対してどのように取り組んでいくかということになるが、中高生も忙しい生活スタイルの中で、やはり学校の授業の中で読書に触れる機会づくりを大事にし、学校生活の中で、読書に親しめる時間を取り入れていくことを目標にしていきたい。
委員	本を読むきっかけについては、資料を見ていると本屋で見つけたからというのが上位にある。本屋で面白い本があるなというのがきっかけになる。
事務局	本屋に見られるような魅力発信の仕方などを、図書館運営でも参考にしたい。
委員	保護者の意識も大切だと思う。保護者がスマートフォンをどこへ行っても見ているような状態だと感じる。便利なツールとしてタブレットや携帯を持っていて、調べものも本でしなくなっている。子どもたちもタブレットに慣れていかなければならない世代になってきているので、全部切り離すのではなく本をめぐって調べることなどで何か違う知識まで一緒に得られるような良い部分があることを保護者に理解を促せたらと思う。
事務局	学校の授業でも、タブレットで調べる魅力のほかに、本で調べる魅力を生かした学習の取り組みがされている。今後このような取り組みを広げていくのには大人の伴走が大事だと推進委員会でも言われている。保護者への啓発も含めて本に親しんでもらえるような研修会などの取り組みをしていけたらと思う。
委員長	他に何か意見はあるでしょうか、無いようでしたら次の議事に行きます。
事務局	(3) 令和6年度成人式報告について 質疑なし
事務局	(4) 中央公民館講座 水鳥観察会報告について 質疑なし
委員長	議事終了
事務局	3. 連絡事項 4. 閉会